

# 令和5年度 事業報告書について

## 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

### I. 令和5年度の事業概要

今年度は、コロナ感染症の5類への変更により社会経済活動が正常化し、個人消費や円安によるインバウンドの回復が顕著となる等、明るい材料が出てきた一方で、人材不足、原材料・燃料の高騰に加え世界情勢の不安定化等の影響により、中小企業の経営環境は引き続き厳しい状況が続く一年だった。

こうした状況下、九州オープンイノベーションセンター（KOIC）では、昨年度に引き続きDX（デジタルトランスフォーメーション）に着目し、オープンイノベーションによってグローバル化および技術開発とベンチャーの創出を推進するとともに、変革を牽引する人材の育成等の各種事業を実施した。

まず、DXに関する事業について紹介すると、九州経済産業局と連携して、サイバー攻撃対策を学ぶ「DX with Cybersecurity 推進セミナー」、データサイエンスやAIの活用で生産性の向上を図るワークショップ、フォーラムを開催した。また、DXを経営に取り入れるには経営者層の理解こそが重要との考えで始めた「九州デジタル経営塾」は、これまでのフォローアップを中心に九州3カ所で開催した。次世代を担う人材向けの「九州ネクストリーダー塾」もDXとオープンイノベーションをテーマに開催した。

KOICではDXをテーマに3か年取り組み、この間、多くの機関等でも同様の取り組みが増えてきたことから、我々の先導的な取り組みは一定の役割を果たせたものと考えている。

その他の主な事業を紹介すると、世界のオープンイノベーション拠点との交流事業では、東南アジアでも有数の先進企業の拠点として注目を集め、ユニコーンの約半数が拠点を置くシンガポール、マレーシアに注目し、「シンガポール・マレーシア経済交流ミッション」を派遣した。

大学のシーズからベンチャー企業を創出し産業化に向け支援していく九州・大学発ベンチャー育成支援事業を九州・大学発ベンチャー振興会議の事務局として運営し、ギャップ資金の提供等を行った。

九州の戦略産業の振興のため、環境・エネルギー分野の九州環境エネルギー産業推進機構（K-RIP）および医療機器・ヘルスケア分野の九州ヘルスケア産業推進協議会（HAMIQ）の活動を支援した。

九州の産業成長戦略である「九州Earth戦略II」実現の一助として、オープンイノベーションによるモノづくり基盤や先端技術等の事業化を通じたイノベーションの創出に向け、研究開発型中小企業の課題の発掘から事業化まで一貫した伴走支援に取り組んだ。

加えて、KOIC設立4年目を迎え、地域の皆様に一層の認知度を高めていただくため、これまでの活動内容を盛り込んだKOICのプロモーションビデオを作成した。

KOICは九州全域をカバーする産業支援機関として、賛助会員をはじめ、頑張る中堅・中小企業のために、こうした事業を九州経済産業局、産業技術総合研究所九州センター、中小企業基盤整備機構九州本部、九州経済連合会等の関係機関、九州一円の大学・高専・公設試など62機関が参加する九州イノベーション創出戦略会議（KICC）、九州・大学発ベンチャー振興会議等と密接に連携し、展開している。

## Ⅱ. 個別事業

### 1. 振興支援事業

56,738千円

#### (1) オープンイノベーションによる新事業創出支援事業

【自主事業】(7,481千円)

##### ① 世界のオープンイノベーション拠点との交流事業

【自主事業】((5,297千円))

近年、東南アジアでも有数の先進企業の拠点として注目を集め、ユニコーンの約半数が拠点を置くシンガポール・マレーシアに注目し、イノベーション、デジタルの政策を推進している政府機関や先端企業、スタートアップ企業などの実態を視察し、現地企業やスタートアップ企業との連携、協業、投資などについて相互に経済交流を深めることを目的に瓜生会長を団長とする「シンガポール・マレーシア経済交流ミッション」を派遣した。

#### ■ シンガポール・マレーシア経済交流ミッション スケジュール

| 派遣期間                               | 日          | 時間              | 内容                                     | 備考                 |
|------------------------------------|------------|-----------------|----------------------------------------|--------------------|
| 1月16日<br>～<br>1月20日<br><br>参加者:24名 | 16日<br>(火) | 7:15-15:20      | 福岡⇒シンガポール SQ655                        | シンガポール航空           |
|                                    |            | 19:00-          | 結団式(夕食会)                               | ペニンシュラ・エクセルシオール    |
|                                    | 17日<br>(水) | 9:00-9:30-10:30 | 出発<br>シンガポール経済開発庁(EDB)<br>表敬訪問         |                    |
|                                    |            | 11:00-12:00     | シンガポールビジネス連盟(SBF)<br>表敬訪問              | 団長他数名の参加           |
|                                    |            |                 | (昼食)                                   |                    |
|                                    |            | 13:00-14:00     | 情報通信開発庁(IMDA) PIXEL<br>イノベーションハブ訪問     | 本団                 |
|                                    |            | 15:00-17:30     | 九州経済界・シンガポールビジネス連盟・セムコープ<br>合同経済交流セミナー | セムコープ・インダストリーズ     |
|                                    |            | 18:00-          | 九州・シンガポール<br>経済交流・夕食会                  | ペニンシュラ・エクセルシオール    |
|                                    | 18日<br>(木) | 6:30-           | 出発<br>シンガポール<br>⇒マレーシア SQ108           | シンガポール航空           |
|                                    |            |                 | (昼食)                                   |                    |
|                                    |            | 14:00-15:00     | マレーシア投資開発庁(MIDA)<br>表敬訪問               |                    |
|                                    |            | 15:45-16:45     | マレーシア技術革新アクセラレーター(MRANTI) 訪問           |                    |
|                                    |            | 17:45-18:15     | マレーシア日本人商工会議所(JACTIM) 訪問               | 団長他数名の参加           |
|                                    |            | 18:30-          | 九州・マレーシア<br>経済交流・夕食会                   | グランドミレニアム・クアラルンプール |
|                                    | 19日<br>(金) | 9:00            | 出発                                     |                    |
|                                    |            | 10:00-11:30     | マレーシアデジタルエコノミー公社(MDEC) 表敬訪問            |                    |
|                                    |            |                 | (昼食)                                   |                    |
|                                    |            | 14:45-16:00     | Cyber view 訪問                          |                    |
|                                    | 20日<br>(土) | 18:00-21:30     | クアラルンプール<br>⇒シンガポール SQ125              | シンガポール航空           |
|                                    |            | 01:20-8:20      | シンガポール⇒福岡 SQ656                        | シンガポール航空           |

## ② CSV 経営※の実現に向けたビジネスモデル創出支援事業【自主事業】((2, 184千円))

九州内の中小企業のSDGsへの理解の増進を図り、SDGs経営の具体的な取り組みを後押しするため、九州産業経済局・九州SDGs経営推進フォーラム(会員数 998)と連携しながら、CSV経営の普及・啓発を目的とした次の活動を実施した。

※「CSV経営」とは：地域・社会課題解決と企業の収益性の両立を目指す取り組み

| 開催日・場所                                        | 実施概要                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月8日(火)<br>参加者：164名<br>場所：オンライン               | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「官民共創プロジェクト推進セミナー」</li> <li>・テーマ 逆転の発想による企業と自治体の新しい出会い方</li> <li>・対象 地域・社会課題を有する自治体、SDGs経営に関心のある事業者</li> <li>・講師 (株)ソーシャル・エックス 伊藤大貴氏</li> <li>・満足度 92% (大いに満足 31%、満足 61%)</li> </ul>           |
| 10月26日(木)<br>参加者：4自治体 10名<br>場所：GROWTH1       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「官民共創プロジェクト推進事業」自治体向けワークショップ</li> <li>・テーマ 社会課題の言語化とは</li> <li>・対象 応募4自治体(直方市、飯塚市、佐賀市、鳥栖市)</li> <li>・講師 (株)ソーシャル・エックス 伊藤大貴氏、志賀久美子氏</li> <li>・満足度 100% (大いに満足 30%、満足 70%)</li> </ul>            |
| 12月7日(木)<br>参加者：9社 18名<br>場所：GROWTH1          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「官民共創プロジェクト推進事業」企業向けワークショップ</li> <li>・テーマ 社会課題を起点とした事業開発</li> <li>・対象 官民共創ビジネスに関心があり、課題4テーマで事業を検討中の企業</li> <li>・講師 (株)ソーシャル・エックス 伊藤大貴氏、志賀久美子氏</li> <li>・満足度 100% (大いに満足 56%、満足 44%)</li> </ul> |
| 2月6日(火)<br>参加者：43名<br>場所：GROWTH1<br>(一部オンライン) | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「官民共創プロジェクト推進事業」取組報告会</li> <li>・テーマ 官民共創の新しい形、ワークショップ参加自治体・企業の取組報告</li> <li>・対象 地域社会課題を解決しようとする自治体・企業等</li> <li>・講師 (株)ソーシャル・エックス 伊藤大貴氏</li> <li>・満足度 93% (大いに満足 52%、満足 41%)</li> </ul>        |

また、地域で持続的な社会課題解決の担い手となる中小企業を創出するエコシステムの構築に向けた取り組みが期待されている中、エコシステムの中核となる中間支援団体※に関する調査事業を実施した。

調査期間：R5年12月～R6年2月

調査方法：公開情報の収集、調査対象企業・団体へのインタビュー(オンライン)

調査対象：九州に活動拠点を置く中間支援団体5社

調査項目：設立経緯、ステークホルダー、事業内容、具体事例、活動実績、今後の展望

※「中間支援団体」とは

「多元的社会における共生と協働という目標に向かって、地域社会とNPOの変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者とNPOの仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織(内閣府『中間支援組織の現状と課題に関する調査報告』)」

## (2)九州・大学発ベンチャー育成支援事業

【自主事業】(8, 448千円)

大学発ベンチャー企業創出のため、九州・沖縄の大学、産業界、ベンチャーキャピタルをつなぐプラットフォームとして平成29年に設立された「九州・大学発ベンチャー振興会議※(事務局：KOIC)」は、ギャップ資金やアントレプレナーシップ教育等の提供を行い、大学のシーズからベンチャー企業を創出するエコシステムの構築を図ってきた。

今年度は、本会議の周知と活動の理解を図るためホームページの開設を行うとともに、新規企業会員の募集活動を積極的に行い 6 社が入会（3 社退会）した。また国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の大学発新産業プログラムに採択されたプラットフォーム（通称 P A R K S。主幹機関：九州大学、九州工業大学）に新たに参加した 3 大学（合計 18 大学）とも連携し、さらなるエコシステムの充実を図った。

本会議の活動としては 8 月に実務担当者による「第 8 回九州・大学発ベンチャー振興実践会議」を開催し、13 大学から 27 件のシーズが提出され、また令和 2 年度から始めた企業のニーズから大学のシーズを探索しマッチングさせる事業では 12 企業から 24 件のニーズが提出された。

その後、企業からのギャップ資金提供の調整を行い、1 月に 27 件の大学のシーズに対し 2,400 万円を提供した。（うち KOIC は、10 件のシーズに 600 万円を提供）

また、24 件の企業ニーズに対し 19 件の大学シーズが提出され、順次マッチングを行い 1 件が共同研究予定、10 件が協議継続中、5 件が協議終了となっている。

この他、本会議が今年度把握した成果として、過去シーズの内、新たに 5 社（合計 14 社）が資金調達に成功し、4 社（合計 25 社）のベンチャー企業が設立された。また過去の企業、大学のマッチングの中から 8 件の共同研究が開始され、2 件が共同研究開始予定である。

2 月には、代表者による「第 8 回九州・大学発ベンチャー振興会議」を開催し、今年度の活動報告を行い、来年度も同様の活動を行うことが承認された。

※九州・大学発ベンチャー振興会議（令和 5 年 12 月末現在）：18 大学（準会員 4 校含む）、  
22 事業会社、10 金融機関、1 生保、3 VC、6 経済団体で構成

## ■ギャップ資金提供先のうち KOIC 提供先

| No. | 大学      | 研究開発の名称                                           | 所属                       | 研究者名  | 提供額       |
|-----|---------|---------------------------------------------------|--------------------------|-------|-----------|
| 1   | 長崎大学    | 地域コミュニティ向け回覧板とメタバースを同時生成する Paper Metaverse の研究開発  | 情報データ科学部<br>教授           | 小林 透  | 500,000   |
| 2   | 長崎大学    | お茶に特化した生育管理指標「tea-NDVI」の開発と「tea-CLOUD」構築研究        | 情報データ科学部<br>教授           | 全 炳徳  | 500,000   |
| 3   | 熊本大学    | 衛星データ等活用による熊本沿岸域の生物多様性保全と新規事業提案                   | くまもと水循環・減災<br>研究教育センター教授 | 逸見 泰久 | 500,000   |
| 4   | 北九州市立大学 | 脳機能賦活を誘起する手指リハビリテーション支援統合システムの企業化について             | 環境技術研究所<br>教授            | 松田 鶴夫 | 500,000   |
| 5   | 北九州市立大学 | 低消費電力・高性能な CPU・ウェブアプリ・データフロープロセッサ統合 3 次元集積回路の論理設計 | 国際環境工学部<br>准教授           | 山崎 進  | 500,000   |
| 6   | 福岡大学    | 拡張現実技術を用いた新規脳手術用ナビゲーションシステムの開発                    | 福岡大学病院 脳神経<br>外科診療 准教授   | 森下 登史 | 500,000   |
| 7   | 福岡大学    | 遺伝子治療の効果を増強させるペプチドベースの送達システム                      | 医学部解剖学講座<br>准教授          | 貴田 浩志 | 1,000,000 |
| 8   | 福岡大学    | 感染症検査を効率化する診断支援 AI                                | 医学部微生物・<br>免疫学講座 講師      | 尾鶴 亮  | 1,000,000 |
| 9   | 福岡工業大学  | 自動操縦ドローンの GPS 補完 AI 技術                            | 情報工学部情報<br>工学科 教授        | 種田 和正 | 500,000   |

|    |        |                          |               |       |           |
|----|--------|--------------------------|---------------|-------|-----------|
| 10 | 福岡工業大学 | 高齢者自立支援のための俳句を利用した対話システム | 情報工学部情報工学科 教授 | 馬場 謙介 | 500,000   |
|    |        |                          |               | 提供金額計 | 6,000,000 |

■ 振興会議にシーズを提出後、設立されたベンチャー企業（25 社）

| No. | 大学     | 研究開発の名称                                  | 提出年度   | 設立企業名                 | 企業設立時期     |
|-----|--------|------------------------------------------|--------|-----------------------|------------|
| 1   | 九州大学   | 九大カイコバイオリソースと昆虫工場を用いた難発現性タンパク質の大量生産システム  | H29 年度 | KAICO(株)              | H30 年 4 月  |
| 2   | 福岡大学   | 不妊症における治癒不能な子宮内膜着床不全の治療法の開発              | H29 年度 | (株)キュベレ               | H30 年 8 月  |
| 3   | 九州大学   | 接触圧センサ体ウェアラブル血流計血流計の開発                   | H29 年度 | Palmens(株)            | H31 年 3 月  |
| 4   | 宮崎大学   | 宮崎県沿岸域における循環型サクラマス養殖生産事業の定着化             | H30 年度 | (株)Smolt              | H31 年 4 月  |
| 5   | 九州工業大学 | 柔軟膜で包み込んで対象物を把持する新しいロボットハンドの開発           | H29 年度 | KiQ Robotics(株)       | H31 年 4 月  |
| 6   | 宮崎大学   | 高機能性ヒト抗体開発シーズ                            | H30 年度 | MabGenesis (株)        | R 元年 6 月   |
| 7   | 佐賀大学   | 座圧軽減装置“フワット”の販売事業                        | R 元年度  | (株)山城機巧               | R 元年 8 月   |
| 8   | 宮崎大学   | 増殖困難な果樹台木苗の作成                            | R 元年度  | (株)RIFNUM             | R 元年 10 月  |
| 9   | 九州大学   | 生態学を体験して学ぶための教育支援アプリケーション開発              | R 元年度  | (株)サイエンスグルーヴ          | R 元年 10 月  |
| 10  | 九州工業大学 | 介護系行動認識システムおよび行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発      | H30 年度 | (合)AUTOCARE           | R 2 年 2 月  |
| 11  | 九州大学   | 音声明瞭化技術                                  | R 元年度  | サウンド(株)               | R 2 年 4 月  |
| 12  | 宮崎大学   | 楽しみながら「ロコモ」を改善するロボットシステム                 | R 2 年度 | LOCOBOT(株)            | R 2 年 7 月  |
| 13  | 九州大学   | 燃焼後排ガスから C O 2 を低コストに分離し貯留、供給する装置        | R 2 年度 | (株)日本炭素循環ラボ           | R 2 年 12 月 |
| 14  | 琉球大学   | 海藻養殖における夏場の海水冷却システムの開発                   | R 元年度  | (株)リテックフロー            | R 元年 11 月  |
| 15  | 佐賀大学   | AS Order：キャッシュレス決済で「安心モバイルオーダー」を地方から     | R 3 年度 | (株)A S                | R2 年 10 月  |
| 16  | 鹿児島大学  | 古い機器画面の目盛りをデジタルデータに変換する事業－反射光除去 OCR 技術   | R 3 年度 | (株)メタシステム研究所          | R3 年 6 月   |
| 17  | 福岡大学   | 全身投与可能なステルス化腫瘍溶解性ウイルスの開発および社会実装          | R 3 年度 | JOCAVIO(株)<br>(ヨカヴィオ) | R3 年 8 月   |
| 18  | 熊本大学   | Staple 核酸                                | R 3 年度 | (株)S t a p l e B i o  | R3 年 11 月  |
| 19  | 長崎大学   | 病気を媒介する昆虫対策に必要な研究・フィールドワーク用品の開発とその商品化    | R 2 年度 | (株)フィールドワーカーズ         | R4 年 6 月   |
| 20  | 琉球大学   | 小学生向け グローバル型 探求学習プログラムの開発および実践の仕組みづくり 事業 | R3 年度  | 一般社団法人 Q ラボ           | R3 年 11 月  |

|    |        |                                                      |        |                    |           |
|----|--------|------------------------------------------------------|--------|--------------------|-----------|
| 21 | 鹿児島大学  | ガン標的ウイルスの医薬品開発、iPS 細胞の腫瘍化根絶のベクター技術の開発、難治性肝疾患根治医薬品の開発 | H29 年度 | サーブ・バイオファーマ(株)     | R4 年 8 月  |
| 22 | 大分大学   | 竹を原料とする繊維と超高純度セルロースナノファイバーおよびそれらの炭化物                 | H29 年度 | (株)おおいた CELEENA    | R3 年 9 月  |
| 23 | 九州大学   | 活性調節ゲノム編集プラットフォームによる新規遺伝子治療法の開発と実用化                  | R4 年度  | One Genomics, Inc. | R5 年 2 月  |
| 24 | 九州工業大学 | 球駆動式全方向移動装置                                          | R1 年度  | (株)TriOrb          | R5 年 1 月  |
| 25 | 琉球大学   | 慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールの開発                       | H30 年度 | (株)サステインハピネス       | R5 年 10 月 |

### (3)九州・大学発ベンチャー・ビジネスコンテスト支援事業【自主事業】（1,405千円）

一般社団法人九州ニュービジネス協議会と連携し、ベンチャー企業創出を目的に、九州地域の大学に眠るシーズの発掘を行い、大学生、高専生を中心とした若者の創造力とチャレンジ精神を養うための事業計画書（ビジネスプラン）の作成を支援し、またプレゼンテーション能力を養成する場を提供している。

今年度は、九州7県の17大学（大学院含む）、2高専の合計19校から合計42プランの応募があった。第1次審査（書類審査）で20プランに絞り込み、第2次審査会では、ベンチャーキャピタリスト、地場企業のオープンイノベーション担当者、専門家（公認会計士、弁理士等）で構成される専門審査委員会が、予め発表者により制作された「3分動画」を審査し、コンテスト出場9プランを決定した。

その後、11月に最終プレゼンテーション審査（コンテスト）を一般公開の下で開催し、各プランがプレゼン5分、質疑応答8分の後、専門審査委員会による審議により「グランプリ」「九州経済産業局長賞」「九州経済連合会長賞」等、各賞が決定され、「グランプリ（1位）」受賞者は「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」に出場し、「日刊工業新聞社賞」を受賞した。

なお、平成29年以降、本コンテストを契機として16プランが起業化、3プランが起業化に向けて進捗している。

### (4) DX 推進事業

#### 【自主事業】（1,112千円）

九州経済産業局と連携し、DX推進の各種事業を実施した。

「DX with Cybersecurity 推進事業」は、増加するサイバー攻撃に対してサプライチェーン全体での対応が求められる中、経営者・従業員の意識向上やインシデント発生時の迅速な対応が課題となっていることから、中小企業・団体を対象に、最新インシデント事例やサイバー攻撃対策を紹介するセミナーを開催した。

また、企業活動の中でデータサイエンスやAI等を利活用することで生産性の抜本的向上が期待されていることから、AIのユーザー・支援企業双方からの導入事例・活用のポイントや産学連携のプロジェクト事例等を紹介し、企業のデータサイエンス・AIへの関心層の拡大と活用企業の増加を目的とするワークショップやフォーラムを開催した。

| 開催日                                                             | 実施概要                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月25日(月)<br>参加者：(会場)21名<br>(オンライン)68名<br>場 所：リファイン駅東ビル<br>(博多駅) | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「DX with Cybersecurity セミナー」</li> <li>・テーマ AI 利活用と求められるセキュリティ対策</li> <li>・対 象 九州の中小企業・団体</li> <li>・講 師 (株)リンクトブレイン 技術戦略顧問 増渕 大輔 氏<br/>(株)エルススイフ クオリティマネジメント部 小林 博文 氏 他</li> <li>・満足度 61% (大いに満足 25% 満足 36%)</li> </ul>                 |
| 10月23日(月)<br>参加者：32名<br>場 所：久留米シティ<br>プラザ                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「DX入門・AI導入講座」(共催：久留米市)</li> <li>・テーマ AI 導入ワークショップ</li> <li>・対 象 筑後地区の企業・団体</li> <li>・講 師 (株)グルーヴノーツ 赤星 良輔 氏<br/>(株)ストラテジア 前田 憲太郎 氏</li> <li>・満足度 86% (大いに満足 33% 満足 53%)</li> </ul>                                                     |
| 11月14日(火)<br>参加者：30名<br>場 所：久留米シティ<br>プラザ                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「DX基礎・データ活用講座」(共催：久留米市)</li> <li>・テーマ データ活用ワークショップ</li> <li>・対 象 筑後地区の企業・団体</li> <li>・講 師 (株)グルーヴノーツ 赤星 良輔 氏<br/>北九州工業高等専門学校 教授 久池井 茂 氏</li> <li>・満足度 95% (大いに満足 58% 満足 37%)</li> </ul>                                                |
| 2月22日(木)<br>参加者：125名<br>場 所：久留米工業大                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「産学連携DX推進フォーラム in 久留米」(共催：久留米市)</li> <li>・テーマ 産学連携推進の取り組み(大学から、企業から)、<br/>社会でのデータ・AI活用事例講座</li> <li>・対 象 筑後地区の企業、団体、自治体、大学生、高専生</li> <li>・講 師 久留米工業大学 学長補佐・教授 大森 洋子 氏<br/>" " 小田 まり子 氏</li> <li>・満足度 92% (大いに満足 43% 満足 49%)</li> </ul> |

## (5)九州の戦略産業の振興

【国の補助事業等・自主事業】(38,292千円)

### ① 環境・エネルギー分野(K-RIP事業) 【国の補助事業等】(16,184千円)

九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP、会員数270)の事務局として、地方自治体における地域・社会課題の発掘と解決に向けた事業を行うとともに、会員企業等のESG経営の推進や、ベトナム、タイ、インドネシア等における事業展開の支援などを行った。

#### (i) 地域・企業共生ビジネス導入・創業促進事業(地域課題の発掘と解決に向けたマッチング)

(経済産業省の委託事業)

福岡県直方市、佐賀県唐津市および熊本県合志市が抱える地域・社会課題の解決を支援するため、それぞれの自治体が抱える環境問題への対応など、地域・社会課題の発掘のためのミーティングや、その解決のため様々な取り組みを行った。

具体的には、地域・社会課題の解決に向けた啓発セミナーの開催をはじめ、外部専門家や地元企業を交えたワークショップの開催、解決に資する事業を展開している企業とのマッチング、同様の取り組みを普及させるための報告会等を行った。

#### ■ 各自治体の地域・社会課題

| 自治体名 | 内 容                       |
|------|---------------------------|
| 直方市  | 地元企業(製造業)の省エネルギーの推進       |
| 唐津市  | 地域資源(虹の松原の松葉、廃プラスチック等)の循環 |
| 合志市  | 地元企業(製造業)の脱炭素の推進          |

## (ii) ESG 経営に向けた伴走支援等業務委託（福岡市の委託事業）

福岡市における中小企業の ESG 経営を支援するため、ESG 経営に関する啓発セミナーの開催や、参加企業の課題解決に向けた伴走支援、同様の取り組みを普及させるための報告会等を行った。

参加企業は、海外投資家や国内企業の取引先から求められつつある ESG 経営のうち、特に脱炭素を推進していくにあたって、外部コンサルを活用して、課題解決に向けた取り組みを行った。

### ■参加企業の ESG 経営推進のため取り組み

| 企業名 | 内 容                                 |
|-----|-------------------------------------|
| A 社 | 製品の環境認証ラベル（エコリーフラベル）の取得             |
| B 社 | 製造ラインの CO2 削減に向けた熱効率向上策の検討          |
| C 社 | 太陽光発電設備の保守点検サービスによる温室効果ガス排出量削減効果の算定 |

## (iii) 福岡県環境関連企業の海外展開支援業務（福岡県の委託事業）

福岡県の環境関連企業のベトナムおよびタイにおける事業展開を支援するため、昨年度実施した「福岡県環境技術ビジネス WEB セミナー」の参加企業を中心に、ベトナム、タイの現地企業等とのオンライン商談を行った。

具体的には、現地コーディネータが、参加企業 15 社の事業展開ニーズを踏まえ複数抽出した現地企業・政府機関と商談や意見交換を行った。

## (iv) グリーンテック関連分野ベトナム企業とのビジネスマッチング等業務

（福岡アジアビジネス支援委員会の委託事業）

福岡市のグリーンテック関連企業※のベトナムにおける事業展開を支援するため、10 月にホーチミン市で開催された展示会「VIETWATER 2023」に合わせ、参加企業 5 社と現地を訪問し商談を行った。

具体的には、訪問前にオンラインで現地商談候補企業と事前商談を行ったうえで、現地を訪問し商談を行った。

※ 資源や環境の保護に資する製品や技術、サービス等を有する企業

### ■ベトナムミッションの参加企業

| 企業名 | 対象事業・製品      |
|-----|--------------|
| D 社 | 酸素・窒素ガス発生装置  |
| E 社 | 水処理、海水淡水化    |
| F 社 | 雨水利用システム     |
| G 社 | 非接触式流量計・水位計  |
| H 社 | 生物を用いた水質監視装置 |

## (v) 脱炭素社会構築に向けた九州・インドネシア連携プロジェクト形成・促進事業

(本事業の一部は(一財)貿易・産業協力振興財団の助成事業を活用)

脱炭素関連分野の技術を有する九州域内企業のインドネシアにおける事業展開を支援するため、コーディネータが抽出した現地企業とオンラインで商談を行うとともに、2月にインドネシア・ジャカルタ特別市などを訪問し商談、意見交換を行った。

具体的には、訪問前に参加企業のPR動画を作成しYouTubeに掲載するとともに、現地商談候補企業とオンラインで事前商談を行った。2月には、参加企業6社および行政関係者と現地を訪問し、商談・意見交換を実施するとともに、参加企業L社は現地企業と「太陽光発電の保守事業推進に向けた覚書」を締結した。

### ■インドネシアミッションの参加企業

| 企業名 | 対象事業・製品             |
|-----|---------------------|
| I 社 | 焼却灰のリサイクル           |
| J 社 | 産業廃棄物中間処理           |
| K 社 | 石炭灰リサイクルによる透水・保水性舗装 |
| L 社 | 太陽光発電所の保守           |
| M 社 | 規格外野菜を用いた野菜シートの製造販売 |
| O 社 | 雨水利用システム            |

## ② 医療機器・ヘルスケア分野(HAMIQ事業) 【国の委託事業等】((22, 108千円))

九州ヘルスケア産業推進協議会(HAMIQ、会員数169)の事務局として、九州の半導体や自動車産業で蓄積した精密加工技術等を活用した医療機器分野への参入、医療・介護機関とサービス事業者のコラボレーション、医療機器メーカーの販路開拓、海外事業展開の支援を行った。また、ヘルスケア分野、医療分野でのAIやIoT技術の活用、サービスに係る需要創出等を目的に専門家を配置し支援を行った。

### (i) 地域連携拠点自立化推進事業 【国の委託事業等】(((22, 108千円)))

(国立研究開発法人日本医療開発機構の委託事業)

国立研究開発法人日本医療開発機構(AMED)の地域連携拠点自立化推進事業の採択を受け、九州内の自治体、支援機関、大学等と医工連携の連携を深めた。

案件初期段階からグランドデザインを描き事業計画に基づいた伴走支援体制の構築を進め、「作ったけど売れない」から「売れる視点」の医療機器開発支援体制を整備した。

また、大学からの具体的な研究開発案件の相談に対して公募への申請支援や資金的支援への橋渡し、大学内の産学連携機関などからの相談にも対応した。

| 実施事項      | 実施概要                                                                            |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 案件発掘事業    | 九州圏内の大学より研究開発案件の相談が増え、AMEDやGo-Techへの申請を支援し採択の実績につながった                           |
| 専門家人材の充実  | 全国から医療機器開発に対して豊富な経験を持つ大手医療機器メーカーのOBに専門支援人材になっていただき、開発から海外展開まで幅広くアドバイスできる体制を整えた  |
| 情報提供拠点    | ホームページを活用して医療機器開発に重要なマーケティングのための市場規模調査ツールを開発し、解説動画とともにHAMIQホームページで支援機関向けに限定配信した |
| 人材育成プログラム | 昨年度から実施してきた医療機器開発支援人材育成のためWebセミナーの動画と資料をアーカイブ化。HAMIQホームページに限定掲載し、再利用可能とした、      |

## 2. 産業技術振興事業

143,364千円

### (1) オープンイノベーションによる産業技術の振興

【自主事業】(2,483千円)

#### ① 技術ニーズマッチング支援

【自主事業】((JKA事業136千円による))

九州オープンイノベーション創出戦略会議(KICC)と連携し、企業等のニーズ・シーズの情報提供やコーディネータによるマッチング活動を推進し、新事業の創出を支援した。

また、オープンイノベーション気運の醸成を図り、特に中堅・中小企業とスタートアップ企業の共創を推進するため、オープンイノベーション推進のポイントや先行事例および支援施策等を広く企業や自治体に周知するオープンイノベーションフォーラム『Co>Create Future KYUSHU～中小企業とスタートアップの挑戦～』を九州経済産業局と共催で開催した。

| 開催日   | セミナータイトル                                            | 実施概要                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月28日 | Co>Create Future<br>KYUSHU<br>～中小企業と<br>スタートアップの挑戦～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場：アクロス福岡（福岡市）</li> <li>・参加者：会場 84 名、オンライン：116 名</li> <li>・基調講演<br/>(株)浜野製作所 代表取締役 浜野慶一 氏</li> <li>・施策説明</li> <li>・スタートアップのOI事例発表</li> <li>・パネルディスカッション</li> <li>・名刺交換会</li> </ul> |

#### ② 九州イノベーション創出戦略会議(KICC)

【自主事業】((2,347千円))

九州イノベーション創出戦略会議(KICC)の事務局として、九州の大学・高専・公設試等、62機関と連携し、企業の技術課題解決に資する活動を支援した。

## ( i ) 通常総会・特別講演会の開催

7月25日に博多サンヒルズホテル（福岡市）にて開催

|       |                                                                                                                                          |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 通常総会  | 令和4年度事業実績報告(案)、令和5年度事業計画（案）、<br>役員等の選任（案）について全て承認                                                                                        |
| 特別講演会 | 講演1：データ連係によるモノづくりからコトづくりへの展開<br>（国研）産業技術総合研究所インダストリアル CPS 研究センター長<br>谷川 民生 氏<br>講演2：ベンチャーエコシステムとオープンイノベーション<br>（株）ケイエスピー 代表取締役社長 窪田 規一 氏 |

## ( ii ) KICC 構成機関のコーディネータ間ネットワーク構築

昨年度に訪問した KICC 構成機関との意見交換内容を反映し、「コーディネータの顔が見える関係づくり」のため、産業支援機関コーディネータ交流会を開催した。

| 開催日    | 参加者数       | 参加産業支援機関                                                                                                                                                                      |
|--------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月29日 | 参加者<br>32名 | ①福岡県産業・科学技術振興財団、②北九州産業学術推進機構、<br>③九州先端科学技術研究所、④飯塚研究開発機構、<br>⑤佐賀県産業振興機構、⑥くまもと産業支援財団、<br>⑦宮崎県産業振興機構、⑧かごしま産業支援センター、<br>⑨九州オープンイノベーションセンター、⑩久留米リサーチパーク、<br>⑪長崎県産業振興財団、⑫大分県産業創造機構、 |

## ( iii ) K I C C ホームページの改修・更新

### （開放機器情報、K I C C 構成機関コーディネータ・マネージャー情報）

K I C C のホームページから検索できる K I C C 構成機関の開放機器データベースの情報を更新し相互利用の促進を行うとともに、K I C C 構成機関のコーディネータ、マネージャー情報を更新し企業等の技術相談等の推進を行った。

なお、昨年度に訪問した KICC 構成機関との意見交換内容を反映し、開放機器データベースの更新作業にかかわる負担軽減および効率化のためホームページの改修を実施した。

## ( iv ) K I C C 構成機関（62 機関）との意見交換

昨年度に引き続き、公設試、産業支援機関、大学・高専の 20 機関を訪問し、K I C C 事業の紹介や開放試験機器データベース、コーディネータ等の情報活用の活性化策等に関して意見交換を行った。

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 意見交換<br>機関<br>(20 機関) | 鹿児島大学、北九州市立大学、早稲田大学、<br>熊本工業高等専門学校、大分工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、<br>佐賀県工業技術センター、宮崎県工業技術センター、宮崎県食品開発センター、<br>鹿児島県工業技術センター、<br>(公財) 福岡県産業・科学技術振興財団、(公財) 佐賀県産業振興機構、<br>(公財) くまもと産業支援財団、(公財) 大分県産業創造機構、<br>(公財) 宮崎県産業振興機構、(公財) かごしま産業支援センター、<br>(株) 産学連携機構九州、(株) 鹿児島 T L O、<br>農業・食品産業技術総合研究機構、九州地域バイオクラスター推進協議会 |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## (2) 九州Earth戦略Ⅱ実現に向けた新事業創出事業 【JKA補助事業】（12,487千円）

九州の産業成長戦略である「九州・沖縄 Earth 戦略Ⅱ」実現の一助として、オープンイノベーションによるモノづくり基盤や先端技術等の事業化を通じたイノベーションの創出に向け、KOICの職員とコーディネータと一緒に九州の研究開発型中小企業を訪問し、技術やビジネスのニーズやシーズを調査・発掘。これらの事業化に向け、企業・大学・産業支援機関とのマッチングを図りプロジェクトメイク。KOICコーディネータがコーディネートする研究会で解決に向けた事業計画の策定などの支援を行い、技術開発等が必要なプロジェクトは国の技術開発補助事業等の活用を図るほか、事業化に向けた展示会出展支援を行い、入口から事業化まで一貫した事業化支援を行った。

※JKA：Japan Keirin Autorace Foundation 自転車・小型自動車公営競技を振興する公益法人。

売上の一部を機械振興と公益事業の振興事業に補助している。

### ① 委員会、会議等による事業統括・管理

事業の方向性、事業の推進状況等を統括管理する事業推進委員会を開催するとともに、支援プロジェクト毎の進捗、課題の共有を行い、互いにアドバイスを行うコーディネータ会議を開催した。

| 委員会・会議名   | 開催日    | 内容                                                                     |
|-----------|--------|------------------------------------------------------------------------|
| 事業推進委員会   | 6月6日   | 2023年度機械振興チャレンジ研究調査の審査<br>2021年度JKA補助事業自己評価Ⅱ審議                         |
|           | 2月16日  | 2023年度JKA補助事業自己評価Ⅰ審議<br>2023年度機械振興チャレンジ研究調査成果の評価<br>2024年度JKA補助事業の概要説明 |
| コーディネータ会議 | 5月16日  | 2022年度活動実績、2023年度JKA補助事業概要<br>コーディネート活動について 他                          |
|           | 9月6日   | 2023年度コーディネート活動実施状況<br>モノづくりフェアおよびJKA事業成果発表会について 他                     |
|           | 12月11日 | 2023年度コーディネート活動実施状況<br>2024年度JKA補助事業の申請内容について 他                        |
|           | 2月29日  | 2023年度コーディネート活動実施状況<br>2023年度JKA補助事業自己評価Ⅰについて 他                        |

### ② コーディネート活動（技術ニーズの発掘、シーズとのマッチング、ブラッシュアップ研究会）

コーディネート活動では、ニーズ調査で中小企業を数多く訪問することが目的化することなく、支援ニーズを抱えてる企業をいかに訪問・発掘し、マッチング、ブラッシュアップ研究会につなげていくかがポイント。

このため、本年度はコーディネータの委嘱人数を10名に減らし、訪問件数を絞り込んだためニーズ調査・マッチングは年間目標80件を下回ったものの、その出口であるブラッシュアップ研究会は目標の10件を上回る11件発足（公募の4件を除く）させ、事業全体を効果的に実施することができた。

なお、各プロジェクトは、ブラッシュアップ研究会の結果を踏まえ、改良・改善をフォローするとともに、国等の技術開発補助事業への申請および事業化に向けた支援を行っている。

#### ■活動実績

| ニーズ調査（コア技術調査） | 支援ニーズ有 | マッチング | 活動件数計 | ブラッシュアップ研究会<br>発足数 |
|---------------|--------|-------|-------|--------------------|
|               |        |       |       |                    |
| 58            | 9      | 13    | 71    | 11                 |

（年間目標）ニーズ調査・マッチング：80件、ブラッシュアップ研究会発足数：10件（公募除く）

### ③ 機械工業振興チャレンジ研究調査（公募）

技術開発の前段階である技術課題や市場の分析を支援する大学・公設試・企業等向けの提案公募事業では、10件の応募があり、事業推進委員会の審議を経て目標の5件を採択した（うち1件は後日、類似の内容で他の事業に採択されたため辞退された）。

4件については、案件毎のブラッシュアップ研究会を開催し、技術的課題の検討、市場動向の分析等を行った結果、いずれも資金獲得や事業化を目指し継続して研究を続けることとなった。

|   | 研究題目                            | 参加機関・企業                                       | 成果          |
|---|---------------------------------|-----------------------------------------------|-------------|
| 1 | 骨肉腫等の病理診断における安全かつスピーディな骨切断方式の確立 | (株)ファインテック<br>(株)ケイ・アイ・スティナー                  | 次年度<br>継続研究 |
| 2 | カーボンニュートラルに貢献する超高速研削工具の研究開発     | 九州工業大学<br>坂村工作所                               | 次年度<br>継続研究 |
| 3 | RFID タグ埋込型ガラス器具の開発              | (株)クライミング<br>福岡県工業技術センター化学繊維研究所<br>九州計測器(株)   | 次年度<br>継続研究 |
| 4 | 廃材を用いた（エアバック等の）新たなソックスエイドの商品開発  | 久留米大学医療センター<br>久留米大学研究推進戦略センター<br>(株)ワールドグローブ | 次年度<br>継続研究 |

### ④ 展示会出展・成果報告会・セミナー

事業化支援として、これまでにブラッシュアップ研究会等で支援した中小企業の技術や製品等を紹介するため、展示会『モノづくりフェア 2023』にスタートアップ企業2社を含む4社の出展を行うとともに、同フェアの中で「機械工業振興チャレンジ調査研究成果報告会」を開催し、販路開拓や業務提携等の事業展開の機会を設けた。

また、オープンイノベーションフォーラムを九州経済産業局と共催で2月28日に開催するとともに、技術ニーズマッチング支援事業、九州デジタル経営塾、九州ネクストリーダー塾でセミナー等を開催した。

※技術ニーズマッチング支援事業、九州デジタル経営塾、九州ネクストリーダー塾については別掲

| 開催日               | 実施概要                                                                                                                             | 参加・進捗状況                                                                                     |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月18日～<br>10月20日 | モノづくりフェア 2023 に出展<br>KOIC の支援事例および九州域内中小企業の技術や製品等を紹介し、販路開拓や業務提携等事業展開のチャンスを広げるため出展（KiQ Robotics(株)、(株)九建、田川産業(株)、(株)HaKaL 4社出展支援） | フェア来場者数：合計 23,792 名<br>支援企業 4 社について、<br>・商談成立件数：1 件<br>・見積提出件数：3 件<br>・開発/製造/販売における提携件数：1 件 |
| 10月19日            | JKA 補助事業成果発表会開催（モノづくりフェア 2023 内）機械工業振興チャレンジ調査研究の成果を広く紹介                                                                          | 参加者数：28 名                                                                                   |
| 2月28日             | オープンイノベーションフォーラムを九州経済産業局と共催<br><br>Co-Create Future KYUSHU<br>～中小企業とスタートアップの挑戦～                                                  | 参加者数：200 名<br>（会場：84 名<br>オンライン：116 名）                                                      |

### (3)成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業※：旧サポイン事業）

【国の補助事業等】（128,167千円）

特定ものづくり基盤技術（情報処理、精密加工、立体造形等の12の技術分野）およびIoT、AI等の先端技術を活用した高度なサービスに関する研究開発や試作品開発等の取り組みを支援するため、企業の技術と大学・高専・公設試のシーズや専門的知見を結集して行う経済産業省の産学連携型の技術開発補助事業を活用し、開発と事業化を目的としたプロジェクトに事業管理機関としてマネジメントを行った。

今年度は、3件の新規案件（うち1件は2年目から支援）と2件の継続事業（サポイン事業）について、企業・大学・研究機関等の事業進捗状況などの管理・調整役である事業管理機関として効率的な事業運営を行った。

また、過去のサポイン事業17件の各実施機関に事業化状況のフォローアップ調査を行った。

※Go-Tech 事業：基盤技術分野の新技术・新事業開発を促進する、経産省補助事業  
対象は中小企業・大学・高専・公設試  
上限3年間9,750万円、補助率：中小企業2/3、公設試等 定額

|    | 分野   | 件名                                                                  | 補助先                                                         | 成果                                                                              |
|----|------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 継続 | 精密加工 | 車載用半導体デバイスの切断工程の工法転換を実現する刃先先端 R シングルナノメートルの刃物の開発<br>【令和3年度～令和5年度予定】 | (株)ファインテック<br>岐阜大学<br>久留米大学                                 | 令和3年度採択事業(サポイン)<br>3年計画の最終年度として目標を達成し完了。                                        |
|    | 測定計測 | 土壌汚染を簡易・迅速に分析する重金属検出技術を活用した簡易検出材 OCTES-2 の開発<br>【令和3年度～令和5年度予定】     | (有)坂本石灰工業所<br>東京工業高等専門学校<br>苫小牧工業高等専門学校<br>熊本高等専門学校<br>熊本大学 | 令和3年度採択事業(サポイン)<br>3年計画の最終年度として目標を達成し完了。                                        |
| 新規 | バイオ  | カイコ・バキュロウイルス発現系を用いた経口ワクチンの製造基盤技術の開発<br>【令和5年度～令和6年度予定】              | KAICO(株)<br>九州大学                                            | 令和4年度採択事業<br>今年度の計画目標は一部未達だが事業化に向けては確実に進捗。<br>次年度は別補助金内で研究開発を継続し Go-Tech 事業は終了。 |
|    | 機械制御 | 安全性を劇的に向上させる手術支援ロボット用臓器誤接触回避システムの開発<br>【令和5年度～令和7年度予定】              | F. MED(株)<br>九州大学                                           | 令和5年度採択事業<br>今年度の計画目標を達成し、次年度も研究開発を継続。                                          |
|    | 測定技術 | 家畜感染症拡大防止を目的とする現場で迅速に判断できる高速・高感度簡易病原体検出キットの開発<br>【令和5年度～令和7年度予定】    | (株)HaKaL<br>北海道大学<br>熊本大学<br>久留米大学<br>他1社                   | 令和5年度採択事業<br>今年度の計画目標を達成し、次年度も研究開発を継続。                                          |

#### (4)他機関との連携事業

【自主事業】 (227千円)

産業支援機関や公設試のコーディネータやマネージャーとのネットワークを構築し、さまざまな相談等に対する広域的コーディネート活動を支援した。

| 実施日    | 事業名                      | 主な内容                                                                                                                         |
|--------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月4日   | KFC※特別講演の開催              | KFCの事務局として総会、講演会を開催                                                                                                          |
| 11月22日 | KFCセミナー研究交流セミナーの開催       | KFCの事務局としてセミナーを開催                                                                                                            |
| 10月5日  | 九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー参画 | (国研)産業技術総合研究所九州センターが最新の技術開発等の情報提供、各県公設試の支援事例紹介、支援機関間の情報交換および研究成果の民間企業への橋渡しに繋げるための交流の場として開催<br>K O I Cも九州全体を対象エリアとする支援機関として参画 |

※九州ファインセラミックス・テクノフォーラム

### 3. 啓発普及事業

4,280千円

#### (1)ソーシャルイノベーション実践交流会

【自主事業】 (1,523千円)

持続的な成長や ESG 投資への対応の重要性が指摘される中で、さまざまな社会的な課題について事業を通して解決していくことは、企業価値を高めるとともに、新たな分野を切り拓くことにも繋がる。

従来は市場として認識されていなかった分野に着目し、九州大学ユヌス&椎木ソーシャルビジネス研究センターと連携して、具体的なソーシャルビジネスの企画と実践を通してイノベーションを起こしていくことを目指す「社会課題解決型ビジネスを構想するソーシャルイノベーション実践交流会」を開講した。

セミナー、ワークショップならびにフィールドトリップなど充実した内容を6回に亘り実施し、ソーシャルビジネスへの関心をもった製造業、小売業、サービス業、建設業、情報通信、金融業、インフラ関連業種など多種多様な業種の人材が参加した。

| 開催日              | 実施概要                                                                                                                                                                                                        |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月28日<br>参加者:27名 | 『ソーシャル・ビジネス概論』<br>1.開会挨拶<br>2.九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターセンター長挨拶並びにセンターの概要<br>九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターセンター長 星野裕志氏<br>3.参加者自己紹介<br>4.ソーシャル・ビジネス概論<br>九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターイクゼクティブディレクター 岡田昌治氏<br>5.交流会 |
| 8月30日<br>参加者:28名 | 『ソーシャル・ビジネス事例』<br>1.ソーシャル・ビジネスの事例<br>九州大学ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センターイクゼクティブディレクター 岡田昌治氏<br>2.有限会社 トラストの事例 代表取締役 小野祐紀香氏<br>3.株式会社 マイソルの事例 代表取締役 CEO 福澤久氏<br>4.株式会社 数寄屋の事例 代表取締役 平田央氏<br>5.Q&Aおよび総括<br>6.交流会       |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月23日<br>参加者:25名 | 『休眠預金活用制度プロジェクト』<br>1.休眠預金を活用したソーシャル・イノベーション<br>九州大学122&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター-I&Gセクティブディレクター 岡田 昌治 氏<br>2.休眠預金活用制度プロジェクト事例紹介<br>九州大学122&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター-I&Gセクティブディレクター 岡田 昌治 氏<br>3.意見交換とQ&A<br>4.交流会                                 |
| 11月27日<br>参加者:21名 | 『フィールドトリップ』<br>1.(株)ボードレスジャパン福岡本社（福岡市中央区天神 3-1-1）<br>2.(株)ヒューマンハーバーある蔵若草工場（糟屋郡宇美町若草 2-17-1）                                                                                                                                           |
| 1月24日<br>参加者:15名  | 『ワークショップ』<br>1.ソーシャルビジネス事例集によるケーススタディ<br>九州大学122&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター 星野 裕志 氏<br>2.ソーシャルビジネス創出のプレゼンテーション<br>九州旅客鉄道株式会社 吉岡 大貴 氏<br>チホブスタジオ 鎌田 千穂 氏                                                                                       |
| 2月5日<br>参加者:24名   | 『ワークショップおよび総括』<br>1.ソーシャルビジネス創出のワークショップ（グループワーク）<br>九州大学122&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター-I&Gセクティブディレクター 岡田 昌治 氏<br>2.グループワークの発表<br>3.まとめ・総括<br>九州大学122&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター 星野 裕志 氏<br>九州大学122&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター-I&Gセクティブディレクター 岡田 昌治 氏<br>4.交流会 |

## (2)九州経済を考える懇談会

【自主事業】（1,004千円）

九州の経済6団体※のトップが一堂に会し、「九州経済のあり方や課題および具体的な政策」を議論し、九州戦略会議・九州知事会および国等へ意見具申・要望を行う懇談会を共同事務局の(一社)九州経済連合会および(公財)九州経済調査協会と連携して開催した。

※（一社）九州経済連合会会長、（一財）九州オープンイノベーションセンター会長、九州商工会議所連合会会長、九州経済同友会代表委員、九州経営者協会会長、（公財）九州経済調査協会理事長

## (3)地域技術交流事業

【自主事業】（422千円）

### ① 九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議

九州・沖縄地区の国立大学法人と産業界等との研究業務の円滑な遂行を図ることを目的に、関連法人と当財団がネットワークを構築し、産学官連携に関する現状と課題、協力体制等について意見交換を行った。今年度は熊本大学が当番校（議長）となり、参加者は9大学、6機関から25名が参加した。

| 開催日   | 場所  | 意見交換テーマ                                                |
|-------|-----|--------------------------------------------------------|
| 12月1日 | 熊本市 | ・産学連携人材の確保、育成、共有について<br>・JST「共創の場形成支援プログラム」への提案・採択について |

**(4)カーボンニュートラル(CN) 普及啓発事業****【自主事業】(1, 331千円)**

カーボンニュートラルを推進するため、九州経済連合会等と連携し、「再生可能エネルギーの産業化を目指すアクションプラン(九州モデル)」実現のため、展示会への出展(次表①)、検討会・委員会を開催(次表②)した。

また、K-RIPと連携し、9月に昨年訪問した台湾から經濟部中小企業處の吳 佳穎 副處長を団長とする訪日ミッションを受け入れ、「日台グリーンサステナブルおよびスタートアップ交流会」(次表③)を開催し、カーボンニュートラルの推進等に関する意見交換を行った。

さらに、カーボンニュートラルにつながる海外事業展開の支援として、1月に環境事業等を展開している参加企業8社および行政機関2者とベトナム・ホーチミン市等を訪問し、現地企業・政府機関と商談や意見交換を行った(次表④)。

**① 展示会出展**

| 展示会名称         | 開催日         | 開催場所                       | 内容                                                                                                                                                                      |
|---------------|-------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エコテクノ<br>2023 | 7月5日<br>～7日 | 西日本<br>総合<br>展示場<br>(北九州市) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「再生可能エネルギー産業化推進委員会」の活動・取り組みの紹介</li> <li>・大分県企業の高純度水素精製装置のデモ機展示</li> <li>・全体来場者数：約 18,000 名</li> <li>当ブース訪問者数：約 120 名</li> </ul> |

**② 会議開催**

| 会議名                             | 開催日                 | 開催場所        | 内容                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------|---------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 再生可能エネルギー<br>産業化推進<br>委員会       | 第1回<br>10月2日        | 九経連         | 委員長：九州大学名誉教授 安浦 寛人 氏<br>講演「洋上風力発電事業の取組みについて」<br>九電みらいエナジー(株) 担当部長 中 伸介 氏<br>出席者：28名                                                                                                     |
|                                 | 第2回<br>3月14日        |             | 委員長：九州大学名誉教授 安浦 寛人 氏<br>講演「九州洋上風力産業関連ネットワークの活動について」<br>九州経済産業局 課長補佐 樋口 一郎 氏<br>出席者：23名                                                                                                  |
| 水素エネルギー<br>産業化実務者<br>会議         | 第1回<br>7月14日        | オンライン       | 座長：九州大学大学院工学研究院 教授 伊藤 衡平 氏<br>講演「燃料電池小型トラック取組み」<br>(株)ローソン 有吉 孝治 氏<br>出席者：32名                                                                                                           |
|                                 | 第2回<br>1月18日<br>19日 | 鹿児島市<br>霧島市 | 座長：九州大学大学院工学研究院 教授 伊藤 衡平 氏<br>講演「カーボンニュートラルの実現に向けた基礎知識」<br>佐賀県再生可能エネルギー総括監 大野 伸寛 氏<br>「水素社会実現に向けた国内外の動向」<br>九州大学特任教授 横本 克己 氏<br>施設見学：鹿児島市南部清掃工場、日本ガス LNG 基地、京セラきりしま R&D センター<br>出席者：29名 |
| 地熱・<br>温泉熱エネルギー<br>産業化実務者<br>会議 | 第1回<br>8月30日<br>31日 | 指宿市         | 座長：九州大学大学院工学研究院 教授 藤光 康宏 氏<br>施設見学：メガエナジー指宿発電所<br>九州電力(株)山川発電所<br>出席者：20名                                                                                                               |
|                                 | 第2回<br>2月28日<br>29日 | 大分市<br>九重町  | 座長：九州大学大学院工学研究院 教授 藤光 康宏 氏<br>講演「エネルギーファクトリー運営を通じて得た成果と課題について」<br>大分ベンチャーキャピタル(株)統括課長 三浦哲郎氏<br>施設見学：大林組グリーン水素製造実証プラント<br>愛彩ファーム九重<br>出席者：25名                                            |

|                 |              |      |                                                                                                                                       |
|-----------------|--------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 海洋エネルギー産業化実務者会議 | 第1回<br>8月31日 | 鹿児島市 | 座長：佐賀大学海洋エネルギー研究所 教授 池上康之 氏<br>出席者：19名                                                                                                |
|                 | 第2回<br>2月21日 | 鹿児島市 | 座長：佐賀大学海洋エネルギー研究所 教授 池上康之 氏<br>講演「洋上風力の政策動向について」<br>資源エネルギー庁風力政策室 山本純平 氏<br>「海洋エネルギーに関する当社事業のご紹介」<br>九電みらいエナジー(株)部長 磯部暁宏 氏<br>出席者：18名 |

### ③ 日台グリーンサステナブルおよびスタートアップ交流会

| 開催日   | 開催場所                  | 内容                                                                                                   |
|-------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月11日 | 宮前迎賓館<br>灯明殿<br>(福岡市) | ・出席者 台湾側：8名、オンライン参加6社<br>日本側：18名<br>・次第 カーボンニュートラル推進に関する施策や課題について意見交換を行った後、台湾のスタートアップ企業からの事業紹介等を行った。 |

### ④ ベトナムミッション

| 期 間           | 参加者         | 内容                                                                                                    |
|---------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月14日<br>～20日 | 企業8社、行政機関2者 | ・現地企業・政府機関と商談や意見交換を26回実施<br>・参加企業2社が、現地の大学・農業生産法人と「有機資源の循環促進に向けた連携協定」を、現地企業と「技術移転検討のための機密保持契約」をそれぞれ締結 |

## 4. 人材育成事業

5, 158千円

### (1)九州デジタル経営塾【自主事業】（3, 175千円（うちJKA事業1, 086千円含む））

九州の経済6団体※が連携して、企業経営のデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」（令和3年度、4年度に九州各県で実施）のフォローアップを中心としたワークショップを北部九州、中九州、南九州の3箇所で開催した。

内容はグループワークを中心にデジタルと経営を学びながら、経営者同士の交流を深め、自社におけるDX推進の可能性について考え、DX実装の気づきや決意を得ていただく場を提供した。終了後に交流会を実施した。3箇所全体で91名が参加し、参加者へのアンケート調査の結果では総合満足度87%と大変良好な結果が得られた。

※（一社）九州経済連合会、（一財）九州オープンイノベーションセンター、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会、（公財）九州経済調査協会

| 開催日／場所                                  | 内容                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月7日<br>宮崎市<br><br>参加者：30名<br>総合満足度：92% | ○プログラム<br>・開講挨拶 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター 会長 瓜生 道明<br>・来賓挨拶 宮崎県 総合政策部産業政策課長 守部 丈博 氏<br>・基調講演 (株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏<br>・DX事例 高石餅店/ネクストクリエイション 代表取締役 清藤 貴博 氏<br>(株)ジャパンファーム 代表取締役社長 増田 智行 氏<br>・ワークショップ (株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏<br>同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏 |

|                                           |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                           | ・閉講挨拶<br>・交流会                                                           | 一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター 常務理事 山田 真治                                                                                                                                                                                                                              |
| 8月28日<br>熊本市<br><br>参加者：28名<br>総合満足度：74%  | ○プログラム<br>・開講挨拶<br>・来賓挨拶<br>・基調講演<br>・DX事例<br>・ワークショップ<br>・閉講挨拶<br>・交流会 | 一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター 会長 瓜生 道明<br>熊本県 理事(デジタル戦略担当)/企画振興部デジタル戦略局長<br>小金丸 健 氏<br>(株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏<br>(株)三松 代表取締役社長 田名部 徹朗 氏<br>(株)アネシス 経営戦略本部 部長 木下 裕之 氏<br>(株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏<br>同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏<br>一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター 常務理事 山田 真治 |
| 10月27日<br>福岡市<br><br>参加者：33名<br>総合満足度：93% | ○プログラム<br>・開講挨拶<br>・来賓挨拶<br>・基調講演<br>・DX事例<br>・ワークショップ<br>・閉講挨拶<br>・交流会 | 一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター 会長 瓜生 道明<br>福岡県 商工部商工政策課技術人材育成室長 坂井 智明 氏<br>(株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏<br>風月フーズ(株) 代表取締役社長 福山 剛一郎 氏<br>(株)サンキュドラッグ 経営企画室長 藤井 孝太郎 氏<br>(株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏<br>同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏<br>一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター 常務理事 山田 真治         |

## (2)九州ネクストリーダー塾 【自主事業】（534千円（うちJKA事業162千円含む））

中小企業や団体の経営幹部およびネクストリーダー層を対象として、「DXとオープンイノベーション」をテーマに『九州ネクストリーダー塾 2023』を開催した。

ビジネスモデル編ではグローバル化・デジタル化が進む経済社会の変化や事業ドメインの再定義など、今後の経営改革や新規事業を立案する構想力と実行段階で不可欠な行動力について、具体的な事例研究を通して理解を深めるとともに、スキル編では現代のネクストリーダーに不可欠なデータサイエンスの基礎を学んだ。全てオンライン開催とし計4回の開催で延べ227名が参加した。

アンケートでは、ビジネスモデル編は高評価だったものの、スキル編「データサイエンス基礎」は満足度が低かった。特に、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用したグループワークにおいて、「ディスカッションの課題設定が広すぎ、討議しづらかった」「ディスカッションの時間が足りなかった」などの意見をいただき、次年度以降の課題となった。

| 回数  | 開催日            | 内容                                                                                                           |
|-----|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 6月22日<br>6月29日 | ビジネスモデル編 「イノベーションとアントレプレナーシップ」<br>講 師：九州大学大学院教授 高田 仁 氏<br>参加者：延べ125名<br>満足度：95%（大いに満足28% 満足67%）              |
| 第2回 | 7月20日<br>7月27日 | スキル編 「データサイエンス基礎」<br>講 師：(株)AIBOD CEO 松尾 久人 氏<br>" CTO トルヴェ・アントワン 氏<br>参加者：延べ102名<br>満足度：52%（大いに満足11% 満足41%） |

**(3)若手研究者海外研究交流支援事業****【自主事業】（2,698千円）**

電力・エネルギー分野における九州の若手研究者の国際的な感覚や海外との人的ネットワーク構築により九州の研究分野のグローバル化を図ることを目的に、大学・高専に所属する工学系・理学系の若手研究者の長期・短期留学および国際研究集会参加を支援している。

今年度は、外部委員で構成する選考委員会で選考の結果、後期の国際研究集会に6件の研究発表を、次年度前期の長期国外留学に1名を採択した。

| 区分                 | 発表件名／発表者所属・役職                                                                     | 渡航先                | 渡航期間 | 助成金額<br>(千円) |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------|------|--------------|
| 国際研究集会<br>(後期)     | 表面放電を用いたシリコンゴムの劣化度の短時間評価技術<br>(宮崎大学大学院 農学工学総合研究科 博士課程後期2年)                        | グラスゴー<br>(イギリス)    | 7日間  | 350          |
|                    | 導電性被覆PETフィルム上の火花放電前の放電進展に対する表面抵抗率の影響<br>(福岡大学 工学部 電気工学科 助手)                       | グラスゴー<br>(イギリス)    | 9日間  | 350          |
|                    | 銅焼結繊維伝熱面における熱流束上昇<br>(佐賀大学 理工学部機械工学部門 助教)                                         | パドヴァ<br>(イタリア)     | 5日間  | 280          |
|                    | 機械学習による防災点検記録を用いた道路沿い岩盤斜面の管理に関する研究<br>(九州大学大学院 工学研究院附属防災センター 助教)                  | ザルツブルグ<br>(オーストリア) | 6日間  | 320          |
|                    | 単一酸素官能基を有する酸化グラフェンの開発とガスバリア膜への応用<br>(熊本大学大学院 自然科学教育部工学専攻 博士課程後期1年)                | ボストン<br>(アメリカ)     | 8日間  | 350          |
|                    | Fe-Cr-Ni オーステナイト合金中の水素溶解エネルギーに関する第一原理計算：CrとNi量の影響<br>(九州大学大学院 工学府機械工学専攻 博士課程後期2年) | フンシャル<br>(ポルトガル)   | 11日間 | 350          |
| 長期国外留学<br>(次年度・前期) | 静電容量センサの力感知の拡大のための誘電体設計<br>(福岡工業大学大学院 工学研究科電気工学専攻 修士課程1年)                         | バンクーバー<br>(カナダ)    | 8か月  | 2,350        |

**5. 情報提供事業****4,504千円**

各種手段・機会を利用してK O I Cの認知度向上を図った。

**(1) デジタルメディアを活用した情報発信****【自主事業】（4,228千円）**

K O I C設立後3か年が経過したことから、これまでの活動を紹介するプロモーションビデオを作成し、配信を行った。

ホームページ、メールマガジンならびにFacebookやYouTube等のSNSも活用し、イベント・セミナー情報、関連施策等の公募情報等の発信を行った。また、会員やユーザーがワンストップで情報が得られるようホームページにオープンイノベーションに関係する団体、K O I Cと関係の深い団体等とのリンクを設定し、情報アクセスの利便性を図った。

イベント・セミナー等は、より多くの皆様に参加いただけるようコロナ禍において普及したオンライン形式やハイブリット形式での開催を積極的に行った。

|      |                                                            |
|------|------------------------------------------------------------|
| 主な内容 | HP更新：54回、メルマガ配信（定期）：26回、メルマガ配信（事業個別）：43回、Facebook 配信：31回、他 |
|------|------------------------------------------------------------|

## (2)活字媒体による情報発信

【自主事業】（276千円）

K O I C 設立時に作成したパンフレットの記載内容を、現在の事業名等へ修正するとともにわかりやすい表現に変更する等、改訂を行った。

K O I C の活動内容と成果をまとめた「K O I C 年報（Year Book 2022）」を作成し、役員や賛助会員、訪問企業等に配布した。

## 6. 収益事業

【自主事業】収入概算 8,158千円

### (1)成功報酬型コーディネート事業

（収入8,158千円）

成功報酬型コーディネータが多方面から企業情報を集め、事業課題を抱える中小企業に出向き、経営層と面談して、合意の上で、事業計画の策定から知財戦略・販路の探索とマッチングまでを伴走型で支援するコーディネート事業を平成27年度から実施している。

具体的には、成功報酬型コーディネータが企業に対し、定期的なコンサルタント、知財の取得と売却、試作の実施、利益の発生等、コーディネート活動が成功した場合、K O I C が報酬を受け取る成功報酬事業であり、成功報酬型コーディネータと経営層との信頼関係と緊張感を備えた実践的かつ継続的なコーディネート事業である。

今年度は契約継続中の企業支援を中心に76件のコーディネート活動を行い、13件の契約により、816万円の成功報酬収入があった。なお、雇用していたコーディネータが独立したため、今年度からその設立した会社に業務を委託して事業を行っている。また、人材紹介会社を通して専属のコーディネータを求人中である。

#### ① 活動実績

| 区分            | 令和5年度<br>(件数) | 内容                                                      |
|---------------|---------------|---------------------------------------------------------|
| 新規企業発掘        | 2             | 優位な技術を有し、新製品開発・市場開拓を目指す中小企業の調査・発掘等                      |
| 契約前<br>プレ支援事業 | 0             | 要素技術・コア技術の発掘<br>事業化の課題等の抽出と解決方法等の提示<br>知財の有効活用等の提示等     |
| 契約後支援事業       | 74            | 事業化計画の検討<br>知財活用先、試作先、共同開発相手、販売先等の探索と交渉<br>成功報酬契約項目の実践等 |
| 合計            | 76            | —                                                       |

#### ② 成功報酬型の契約と報酬実績

契約を継続している13件のうち8件は、月1～2回訪問やWeb等で相談、アドバイスを  
行い成功報酬を獲得した。5件は具体的な支援課題が現在は無く、契約更新を一旦停止中。

資金獲得を目指し、経済産業省「事業再構築補助金」に2件新規申請支援を行っている。  
また、昨年度採択された4件の事業が円滑に進むよう支援を行っている。

■ 成功報酬額

|           |             |
|-----------|-------------|
|           | 令和 5 年度     |
| 成功報酬額（千円） | 8, 1 5 8 千円 |

■ 平成 2 7 年度～令和 4 年度契約分 1 3 件 （継続契約）

| 企業  | 支援事業                                  | 支援内容                                                                    | 成功報酬                                                                                                    |
|-----|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 社 | 販路開拓支援                                | ・製品化支援<br>・製品販売                                                         | ・試作品開発 15 万円/件<br>・当該製品の利益の 10%<br>一旦停止中                                                                |
| B 社 | ロボット開発支援<br>新規事業に係る支援                 | ・試作品の開発<br>・特許等の知財対応<br>・量産体制の構築<br>・製品販売<br>・ブランディングマッチング支援<br>・販路開拓支援 | ・試作品完成時 50 万円<br>・特許登録時 5 万円/件<br>・量産ライン完成時 50 万円<br>・当該製品の利益の 20%<br>・マッチング契約 50 万円/件<br>・建築契約の利益の 20% |
| C 社 | 新規事業に係る支援<br>販路開拓支援<br>事業購入<br>資金獲得支援 | ・開発コンサル<br>・顧客開拓<br>・許認可取得支援<br>・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援                  | ・開発コンサル料 50 万円/年<br>・当該製品の利益の 10%<br>・事業買収金額の 10%<br>・医療許認可申請 5 万円/回<br>・獲得資金の 5%                       |
| D 社 | 事業化支援                                 | ・原価計算<br>・製造技術管理<br>・試作費用計算                                             | ・当該事業の利益の 20%<br>一旦停止中                                                                                  |
| E 社 | 知財戦略<br>新規事業に係る支援<br>資金獲得支援           | ・知財戦略の立案、実行<br>・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援                                   | ・10 万円/月<br>・獲得資金の 5%                                                                                   |
| F 社 | 事業化支援                                 | ・販路開拓支援<br>・知財戦略支援                                                      | ・開発製品の利益の 15%<br>・特許出願 3 万円/件                                                                           |
| G 社 | 事業化支援<br>資金獲得支援                       | ・製品開発支援<br>・事業化マネジメント<br>・新事業創出<br>・資金獲得申請支援                            | ・10 万円/月<br>・獲得資金の 5%                                                                                   |
| H 社 | 事業化支援                                 | ・製品開発支援<br>・事業化マネジメント<br>・新事業創出                                         | ・10 万円/月（4 か月）<br>・具体的支援内容発生まで<br>一旦停止中                                                                 |
| I 社 | 共同研究開発・技術提携支援<br>事業有償譲渡               | ・資金提供契約支援<br>・有償譲渡契約支援                                                  | ・提供支援、提携料の 20%                                                                                          |
| J 社 | 資金獲得支援                                | ・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援                                                  | ・着手金 10 万円×2 か月<br>・獲得資金の 10%                                                                           |
| K 社 | 資金獲得支援                                | ・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援                                                  | ・着手金 10 万円×2 か月<br>・獲得資金の 10%<br>・具体的支援内容発生まで<br>一旦停止中                                                  |
| L 社 | 資金獲得支援                                | ・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援                                                  | ・着手金 10 万円×2 か月<br>・獲得資金の 10%                                                                           |
| M 社 | 資金獲得支援                                | ・資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援                                                  | ・着手金 10 万円×2 か月<br>・獲得資金の 10%<br>一旦停止中                                                                  |

以 上

# 令和5年度事業実績 対予算比較表

(参 考)

## I 事業費用

(単位：千円)

| 事業内容                             | 決算額            | 予算額            | 差 異           |
|----------------------------------|----------------|----------------|---------------|
| <b>1 振興支援事業</b>                  |                |                |               |
| (1) 世界のオープンイノベーション拠点との交流事業       | 5,297          | 5,000          | 297           |
| (2) CSV経営の実現に向けたビジネスモデル創出支援事業    | 2,184          | 2,500          | △ 316         |
| (3) 九州・大学発ベンチャー育成支援事業            | 8,448          | 11,000         | △ 2,552       |
| (4) 九州・大学発ベンチャー・ビジネスコンテスト支援事業    | 1,405          | 1,600          | △ 195         |
| (5) DX推進事業                       | 1,112          | 1,500          | △ 388         |
| (6) 環境・エネルギー分野（K-RIP事業）          | 16,184         | 13,000         | 3,184         |
| (7) 医療機器・ヘルスケア分野（HAMIQ事業）        | 22,108         | 10,116         | 11,992        |
| 小 計                              | 56,738         | 44,716         | 12,022        |
| <b>2 産業技術振興事業</b>                |                |                |               |
| (1) 技術ニーズマッチング支援事業               | 0              | 1,000          | △ 1,000       |
| (2) 九州イノベーション創出戦略会議（KICC）        | 2,347          | 2,500          | △ 153         |
| (3) 九州Earth戦略Ⅱ実現に向けた新事業創出事業（JKA） | 12,623         | 17,219         | △ 4,596       |
| (4) 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）    | 128,167        | 78,029         | 50,138        |
| (5) 他機関との連携事業                    | 227            | 310            | △ 83          |
| 小 計                              | 143,364        | 99,058         | 44,306        |
| <b>3 啓発普及事業</b>                  |                |                |               |
| (1) ソーシャルイノベーション実践交流会            | 1,523          | 1,700          | △ 177         |
| (2) 九州経済を考える懇談会                  | 1,004          | 1,200          | △ 196         |
| (3) 地域技術交流事業                     | 422            | 400            | 22            |
| (4) カーボンニュートラル（CN）普及啓発事業         | 1,331          | 2,000          | △ 669         |
| 小 計                              | 4,280          | 5,300          | △ 1,020       |
| <b>4 人材育成事業</b>                  |                |                |               |
| (1) 九州デジタル経営塾                    | 2,089          | 1,044          | 1,045         |
| (2) 九州ネクストリーダー塾                  | 371            | 1,348          | △ 977         |
| (3) 若手研究者海外研究交流支援事業              | 2,698          | 6,000          | △ 3,302       |
| 小 計                              | 5,158          | 8,392          | △ 3,234       |
| <b>5 情報提供事業</b>                  |                |                |               |
| (1) デジタルメディアを活用した情報発信            | 4,228          | 3,960          | 268           |
| (2) 活字媒体による情報発信                  | 276            | 1,160          | △ 884         |
| 小 計                              | 4,504          | 5,120          | △ 616         |
| <b>実施事業 計</b>                    | <b>214,044</b> | <b>162,586</b> | <b>51,458</b> |

## II 事業収益

| 事業内容                     | 決算額          | 予算額           | 差 異            |
|--------------------------|--------------|---------------|----------------|
| <b>6 収益事業</b>            |              |               |                |
| (1) 成功報酬型コーディネート事業       | 8,158        | 12,000        | △ 3,842        |
| <b>その他会計（産業技術振興支援） 計</b> | <b>8,158</b> | <b>12,000</b> | <b>△ 3,842</b> |

（注）消費税関連費用等を除く。

## Ⅱ 役員会等に関する事項

### 1 理事会

- 第1回理事会〔令和5年 5月 8日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 顧問1名の選任(2) 参与1名の選任(3) 評議員会の決議の省略 (4) 評議員会の決議事項(5) 令和5年度定時評議員会の日時、場所及び議題
- 第2回理事会〔令和5年 6月 5日〕
  - ・決議事項 : (1) 令和4年度事業報告書(2) 令和4年度決算報告書(3) 令和4年度公益目的支出計画実施報告書(4) 令和5年度定時評議員会の日時、場所及び議題(5) 参与1名の選任(6) 企画委員7名の選任
  - ・報告事項 : (1) 令和4年度資産運用実績報告(2) 2023 年度自転車等機械振興事業に関する補助金交付決定内容(3) 職務執行状況報告
- 第3回理事会〔令和5年 7月 18日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 評議員会の決議の省略(2) 評議員会の決議事項
- 第4回理事会〔令和6年 1月 4日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 評議員会の決議の省略(2) 評議員会の決議事項
- 第5回理事会〔令和6年 2月 22日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 第5回評議員会の日時、場所及び議題
- 第6回理事会〔令和6年 3月 13日〕
  - ・決議事項 : (1) 令和6年度事業計画(案)(2) 令和6年度収支予算(案)
  - ・報告事項 : (1) 令和5年度事業の経過(2) 令和5年度決算見通し(3) 職務執行状況報告

### 2 評議員会

- 第1回評議員会〔令和5年 5月 17日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 監事1名の選任
- 定時評議員会〔令和5年 6月 20日〕
  - ・決議事項 : (1) 令和4年度決算報告書(2) 理事1名の選任(3) 評議員1名の選任
  - ・報告事項 : (1) 令和4年度事業報告書(2) 令和4年度公益目的支出計画実施報告書
- 第3回評議員会〔令和5年 7月 28日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 評議員1名の選任
- 第4回評議員会〔令和6年 1月 16日〕(書面開催)
  - ・決議事項 : (1) 理事1名の選任
- 第5回評議員会〔令和6年 3月 25日 流会→令和6年 3月 29日 書面決議〕

3月25日は当日欠席者があり、定足数が未達となった。議長が審議すべき事項が次年度の事業計画及び収支予算に係る重要な内容のため定款第16条第2項の規定に基づき、全評議員による書面決議を要請

  - ・決議事項 : (1) 令和6年度事業計画(案)(2) 令和6年度収支予算(案)
  - ・報告事項 : (1) 令和5年度事業の経過(2) 令和5年度決算見通し

### 3 企画委員会〔令和6年2月21日〕（オンライン併用）

・令和5年度事業報告(案)、令和6年度事業計画(案)

## Ⅲ 当財団の概況

### 1 設立年月日等

昭和60年 6月14日 財団法人設立(名称：九州産業技術センター)  
平成24年 4月 1日 一般財団法人移行  
令和 2年 4月 1日 九州オープンイノベーションセンターへ名称変更  
(九州産業技術センターを存続法人、九州地域産業活性化センターを消滅法人とする合併による)

### 2 定款に定める目的

この法人は、九州地域において、オープンイノベーション等による産業技術の振興及び新事業の創出に関する諸事業を総合的かつ効率的に推進することにより、九州地域の活性化を図り、もって我が国経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

### 3 定款に定める事業内容

- (1) イノベーション等に関する情報の収集及び提供
- (2) 産業技術の振興に関する支援
- (3) 新事業の創出に関する支援
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 4 会員の状況

| 種 類     | 当年度末   | 前年度末比増減 |
|---------|--------|---------|
| 基 金 会 員 | 277 法人 | 0       |
| 賛 助 会 員 | 75 法人  | + 2     |
| 合 計     | 352 法人 | + 2     |

(注)・基金、賛助双方の会員は38法人  
・賛助会員は休会85法人を除く

### 5 主たる事務所

福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目13番24号

### 6 役員等に関する事項（令和6年3月31日現在）

#### (1) 理事

代表理事 瓜 生 道 明 (九州電力㈱ 代表取締役会長)  
専務理事 今 崎 正 明 常勤

|               |         |                         |
|---------------|---------|-------------------------|
| 常務理事          | 山 田 真 治 | 常勤                      |
| 常務理事<br>兼事務局長 | 原 正     | 常勤                      |
| 理 事           | 朝 倉 正 司 | (トヨタ自動車九州(株) 取締役副社長)    |
| "             | 京 谷 忠 幸 | (株)ピーエムティー 代表取締役)       |
| "             | 坂 本 達 宣 | (有)坂本石灰工業所 代表取締役)       |
| "             | 柴 田 浩 伸 | (西部ガス(株) 取締役 常務執行役員)    |
| "             | 高 田 洋   | (株)福岡銀行 取締役常務執行役員)      |
| "             | 田 口 智 之 | (TOTO(株) 取締役 常務執行役員)    |
| "             | 永 田 潔 文 | (学校法人福岡大学 学長)           |
| "             | 松 本 恭 子 | (九州商工会議所連合会 常任幹事)       |
| "             | 山 根 久 資 | (九州旅客鉄道(株) 上席執行役員 総務部長) |

## (2) 監事

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| 岩 下 西 紀 | (株)肥後銀行 九州エリアブロック統括店長兼福岡支店長)            |
| 濱 平 憲 一 | (九州電力(株) ビジネスソリューション統括本部 業務本部部長 (経理担当)) |

## (3) 評議員

|         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 上 原 洋 介 | (株)西日本シティ銀行 執行役員 法人ソリューション部長) |
| 大 倉 正 彦 | (株)安川電機 執行役員 生産本部長)           |
| 小 野 利 喜 | (九電テクノシステムズ(株) 代表取締役社長)       |
| 土 屋 直 知 | (株)正興電機製作所 代表取締役会長)           |
| 縄 田 真 澄 | ( (公財) 九州経済調査協会 理事長)          |
| 福 田 晋   | (国立大学法人九州大学 理事・副学長)           |
| 堀 江 広 重 | ( (一社) 九州経済連合会 専務理事)          |
| 森 慎 二   | (西日本鉄道(株) 執行役員 総務部長)          |
| 安 川 仁   | (株)九電工 執行役員)                  |

## (4) 顧問

|         |          |
|---------|----------|
| 服 部 誠太郎 | (福岡県知事)  |
| 山 口 祥 義 | (佐賀県知事)  |
| 大 石 賢 吾 | (長崎県知事)  |
| 蒲 島 郁 夫 | (熊本県知事)  |
| 佐 藤 樹一郎 | (大分県知事)  |
| 河 野 俊 嗣 | (宮崎県知事)  |
| 塩 田 康 一 | (鹿児島県知事) |
| 武 内 和 久 | (北九州市長)  |

高 島 宗一郎 (福岡市長)  
大 西 一 史 (熊本市長)

## (5) 参 与

池 田 治 彦 (三菱重工業(株) エナジードメイン 九州火力部 部長)  
上 野 秀 寿 (株)大分銀行 福岡支店兼博多支店 支店長)  
上 山 眞太郎 (株)鹿児島銀行 福岡支店長兼地域支援部福岡事務所長)  
戸 谷 信 之 (株)佐賀銀行 営業統括本部 本部長代理)  
長 友 勇 生 (株)宮崎銀行 福岡支店長)  
日 浦 章 英 (西日本電信電話(株) 九州支店 ビジネス営業部長)  
平 田 和 久 (株)筑邦銀行 執行役員 福岡営業部長兼赤坂門支店長)  
森 田 大 輔 (株)十八親和銀行 福岡営業部 営業部長)

## (6) 企画委員

福 田 晋 (国立大学法人 九州大学 理事・副学長)  
中 原 信 隆 (国立大学法人 九州工業大学 先端研究・社会連携本部  
産学イノベーションセンター センター長)  
豊 田 一 彦 (国立大学法人 佐賀大学 理事・副学長)  
喜 安 千 弥 (国立大学法人 長崎大学 情報データ科学部・大学院工学研究科 教授)  
金 岡 省 吾 (国立大学法人 熊本大学 副学長(地方創生・地域連携担当))  
劉 孝 宏 (国立大学法人 大分大学 理工学部理工学科・機械工学プログラム 教授)  
明 石 良 (国立大学法人 宮崎大学 理事・副学長)  
川 畑 秋 馬 (国立大学法人 鹿児島大学 大学院理工学研究科 教授)  
太郎丸 眞 (学校法人 福岡大学 工学部電子情報工学科 産学官連携センター長・教授)  
倪 宝 栄 (学校法人 福岡工業大学 副学長 総合研究機構長)  
村 田 賢 彦 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 九州センター 産学官連携推進室 室長)  
松 本 一 道 (九州電力(株) テクニカルソリューション統括本部 総合研究所 所長)  
古 閑 裕一郎 (西部ガス(株) 経営企画部 部長)  
秦 啓 二 (日本製鉄(株) 九州製鉄所 生産技術部 部長)  
川 村 暢 (西日本電信電話(株) 九州支店 福岡ビジネス営業部 ビジネス推進部門 部門長)  
池 田 治 彦 (三菱重工業(株) エナジードメイン 九州火力部 部長)  
松 尾 智 弘 (株)安川電機 技術開発本部 技術連携推進部 部長)  
岡 田 拓 也 (デンカ(株) 大牟田工場 セラミックス研究部 部長)  
案 浦 浩 二 ((公財) 九州経済調査協会 業務部 部長)  
久 保 文 一 ((一社) 九州経済連合会 経営企画室 室長)  
荒 牧 敬 次 ((公財) 九州先端科学技術研究所 専務理事・副所長)

## 7 職員に関する事項

| 職 員 数 |      | 前年度末比増減 |
|-------|------|---------|
| 計     | 18 名 | -3 名    |

(注) 常勤理事 3 名、他の機関からの出向者を含む。

## 8 収支及び正味財産増減の状況並びに財産の推移

(単位：千円)

| 事業年度<br>区分          | 元年 3 月期   | 2 年 3 月期  | 3 年 3 月期  | 4 年 3 月期  | 5 年 3 月期  |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 経 常 収 益             | 280,351   | 283,792   | 283,424   | 197,478   | 283,203   |
| 経 常 費 用             | 314,664   | 319,049   | 307,317   | 236,885   | 316,420   |
| 評価損益等調整前<br>当期経常増減額 | △34,313   | △35,257   | △23,893   | △39,407   | △33,217   |
| 評 価 損 益 等           | △173,623  | 26,524    | 64,062    | 5,670     | 69,521    |
| 当期経常外増減額            | △339      | 48,488    | 10,307    | 5,345     | 0         |
| 当期一般正味財産増減額         | △208,275  | 39,755    | 50,462    | △28,392   | 36,303    |
| 一般正味財産期末残高          | 995,824   | 1,035,579 | 1,086,041 | 1,057,649 | 1,093,953 |
| 当期指定正味財産増減額         | 0         | 0         | 0         | 0         | 0         |
| 指定正味財産期末残高          | 330,000   | 330,000   | 330,000   | 330,000   | 330,000   |
| 正 味 財 産 期 末 残 高     | 1,325,824 | 1,365,579 | 1,416,041 | 1,387,649 | 1,423,953 |
| 資 産 合 計             | 1,539,049 | 1,532,728 | 1,585,457 | 1,438,812 | 1,469,728 |
| 負 債 合 計             | 213,225   | 167,149   | 169,416   | 51,163    | 45,775    |
| 正 味 財 産             | 1,325,824 | 1,365,579 | 1,416,041 | 1,387,649 | 1,423,953 |

### 〔参考〕基本財産運用益及び特定資産運用益の推移

| 事業年度<br>区分    | 元年 3 月期 | 2 年 3 月期 | 3 年 3 月期 | 4 年 3 月期 | 5 年 3 月期 |
|---------------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 基 本 財 産 運 用 益 | 1,692   | 1,678    | 1,631    | 1,503    | 1,518    |
| 特 定 資 産 運 用 益 | 46,895  | 43,957   | 43,180   | 35,998   | 32,377   |
| 合 計           | 48,587  | 45,635   | 44,811   | 37,502   | 33,894   |

## 9 その他

令和 5 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 3 4 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。